科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護･医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18010	1	前期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	歴史 (History)				
担当教員名	三舟　隆之				

授業の概要及び到達目標
〔概要〕日本と中国の古代医術史を中心に、日本古代国家の成立と医療の関係を学ぶ。 〔到達目標〕東アジアの道教の医療思想から古代医学の姿を学び、それが日本に伝わっていく過程を理解する。７・８世紀代の木簡から薬料の収集が国家規模で行われたことを宮都出土の木簡や『延喜式』から探り、奈良時代の食生活と病気の関係を明らかにする。また『日本霊異記』などの仏教説話から民間医療の姿を探って、古代医療の姿を明らかにしたい。

準　備　学　習　等
授業の形式は、講義形式で行う。授業内容は、 第 1 回：歴史学の方法、 第 2～4 回：道教医学の内容とその伝播、授業の内容をよく理解しておくこと。 第 5～6 回：日本古代の病気、参考図書①をよく読んでおくこと。 第 7～8 回：古代の医療制度、授業の内容をよく理解しておくこと。 第 9～10 回：古代貴族の病気とその原因、参考図書①③をよく読んでおくこと。 第 11～12 回：古代の木簡と食品・薬品、参考図書②をよく読んでおくこと。 第 13～14 回：仏教と医療、授業の内容をよく理解しておくこと。 第 15 回：まとめ、授業の内容をよくまとめて理解しておくこと。 日本の古代医術がどのように成立したかを、中国の道教医学との影響から考察し、またその病気の原因が何にあったか、山上憶良や藤原道長の病状から推察し、古代の病気と食事の関係を考察する。

成績評価の方法	期末テストで成績評価を 100%で評価する。試験に際しては、ノート・プリントなどの持ち込みは可とするが､15 回の授業全体の理解を求める試験である。合格点は、満点の 60%以上である。
テキスト	とくになし。授業ごとにプリントを配布する。
参考図書	①槇佐知子『日本の古代医術』文春新書･②東野治之『木簡が語る日本の古代』(岩波書店)・③酒井シヅ『病が語る日本史』(講談社学術文庫)。その他は、適宜授業内で紹介する。
備　　考	質問等は授業終了後、教室で受け付ける。

授　業　計　画
第　１回：歴史学とはー世田谷の歴史 第　２回：中国の古代医術―道教思想による不老不死とは 第　３回：道教医学とはー仙薬の製法による不老不死の方法 第　４回：仙薬から文学へー浦島子伝承に見える神仙思想と不老不死 第　５回：古代貴族の病気論ー山上憶良の病気。貴族の食事と生活習慣病① 第　６回：日本の古代医術―因幡の白ウサギの神話の中の古代医術 第　７回：古代国家と医療官人の成立（「医疾令」の成立）－古代医療制度の成立 第　８回：木簡から見た食文化－木簡とは何か。古代日本の各地の食材を知る。 第　９回：古代の医療と栄養学―平城京木簡から古代の食生活を探る。「蘇」の作り方と効用 第 10 回：古代国家と薬料―七世紀代の薬料木簡から、古代医療を探る 第 11 回：仏教と医学ー病気と看護法 第 12 回：『日本霊異記』に見える流行病ー疫病を防ぐには 第 13 回：古代の生活習慣病②ー藤原道長の病気 第 14 回：日本古代医療の特質 第 15 回：まとめ